

## 計算力を高めるためには

3月末の新聞に、小学生の計算力低下についてデータを添えて載せている記事がありました。それによると、特に分数・小数の計算力の低下が著しいということであり、調査を行なった教授は「『ゆとり教育』による指導要領の改訂が主な原因だと思う。計算力の低下を防ぐため反復練習の時間を増やす必要がある」と指摘しています。同様のことはうちの塾生にも感じていることで、最近は確実な計算力を身につけることに相当頭を痛めています。

この時期小中学生のほとんどが計算分野の単元を学習しています。小数・分数の計算や正負の数、連立方程式、因数分解に平方根と、ひたすら反復練習のプリント宿題を毎回のようになっています。

では、「量」をこなせばできるようになるのか？というところでもありません。間違えた問題をそのままにしておいたり、すぐに消してもう一度やり直していたりするようでは、まず正確な計算力は身につけません。間違えた問題は、どこで間違えたのかを探して直す必要があります。そうしないと必ず同じ間違いを繰り返すことになるからです。例えば、かけ算の九九や繰り下がりのひき算の間違える箇所は、いつも同じなのです。つまりこうした自分の弱点をしっかりと把握して、最初に計算をするときに「あっ、これはよく間違えるやつだ」と意識して計算するようにならないければなりません。

また、計算をするときに「早くやろう」と思ってやっけてはいけません。正確な計算力が身につくまではとにかくゆっくりやることです。私はよく「1回で合わせなさい。見直しはするな。」と言います。テストの時にはもちろん時間の許す限り見直してほしいのですが、本来計算は1回勝負です。先ほども述べたように、たいていは同じ間違いをするものなので、見直しで間違いは見つかりません。逆にいえば、やり直すごとに違う答えが出るようでは、それこそ信用できません。

計算のやり方は、かけ算の筆算でも二次方程式でも1時間の授業で教えることはできます。しかしそれを塾生に定着させるには1ヶ月以上かかることもあります。塾では途中計算にこだわります。途中が塾で教えたやり方ではなかったりして、私の気に入らなければ答えが合っても正解にはしません。全員のプリントを見るのは相当な根気が必要ですが、私はこれを塾生との「闘い」だと思っているので、絶対に譲りません。

「計算問題に『難しい問題』はない。『面倒な問題』があるだけで、やり方に変わりはない。」

力のある「3」をとるための最低条件が「計算力」だと考えています。「計算力」はこのあとの単元に影響する重要なものです。しっかりとがんばりましょう。